

6月議会定例会

6月4日に開会し、町長提出の議案など19件を原案どおり可決、6月19日に閉会しました。

主な町長提出議案

●人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

内村ひろえ氏の任期が9月30日で満了するため、後任として辻本一也氏を推薦する案を提出し、適任とされました。

●伊奈町農業委員会の委員の任命

委員11名の任期が7月19日で満了するため、再任命を含む11名を任命する案を提出し、同意されました。

●財産の取得（町立小中学校学習用端末購入）

株式会社エーティーエルシステムズから、町立小中学校学習用端末を252,044,336円で購入するものです。

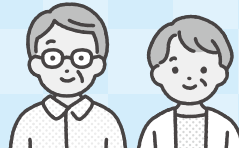
ありがとうございました



松川範夫氏から、町政の発展に役立ててほしいと5万円のご寄附をいただきました。町で有効に活用させていただきます。

令和8年度敬老事業

☎ いきいき長寿課 ☎ 2126



伊奈町敬老会

招待者▼

- ①米寿を迎える方（昭和14年生まれの方）
- ②白寿を迎える方（昭和3年生まれの方）
- ③金婚を迎えるご夫婦（昭和52年中またはそれ以前に婚姻されたご夫婦で、1年以上町に住所を有し、過去に市町村の金婚祝を受けていない方）

日 9月21日(例)10時～

場 総合センター

申 金婚を迎えるご夫婦は、8月21日(金)までに婚姻日がわかるもの（戸籍謄本の写しなど）を持参の上、いきいき長寿課窓口でお申し込みください。

※対象となるご夫婦へ個別の案内はしていません



地区敬老会実施以外の地区の方 （町からお祝い）

8月中旬頃に町から「記念品引換券」を郵送しますので、引換券に記載されている引換場所で、記念品とお引き換えください。

対象地区▼

綾瀬北、栄北、志久、小貝戸



地区敬老会実施地区の方

各区で準備や開催方法の検討期間が必要なので、令和8年度は18区で実施します。地区敬老会実施内容は、各区からご案内があります。

地区敬老会実施地区（18区）▼

丸山、下郷、綾瀬東、綾瀬南、栄南、栄中央、北本、南本、中央、柴中荻、若榎、大針、学園中央、細田山、羽貴、小針新宿、小針内宿、光ヶ丘

町長コラム

清のひとこと——大島清

カルロヴォ市との
友好都市協定披露へ!!



（7月号からの続き）

市主催のレセプションには、カルロヴォ市の友好都市であるドイツ、イタリア、ポーランド、モルドバ共和国から来訪した首長や議員も参加しており、私は初めて参加するということで、挨拶の機会をいただきました。私の拙い英語を丁寧に通訳し、多くの自治体との交流を支えてくれたマリア・ヨトヴァ教授には感謝しかありません。

レセプションでは、首長が順次挨拶した後、各市町の特産品をプレゼントするのが習わしのようなのです。

楽しいときは早いもので、明日また会いましょうの合言葉の中、午後10時20分に散会となりました。

2日目は、いよいよ式典の日です。朝食をいただき、午前7時30分に出発。送迎車に揺られながら30分程で会場に到着しました。一帯にはローズ畑が広がっており、ダマスクローズの香りがあたり一面に漂っていました。

天気は雲一つなく快晴。山脈からほどよい風が吹き、雄大な景色の中で素晴らしく爽快な気分でした。

バラまつりは、大きな鈴を腰に数個付け、音を立てて踊るブルガリア特有の踊りを始め、バラの女王を紹介するなどのイベントが行われていました。私は、その後のバラ摘みに参加しました。ダマスクローズの収穫は今が最盛期で、4～5トンの花からわずか1キログラムしか採取できないオイルは最高級品だそうです。

午前10時30分、式典会場である市役所前広場に移動しました。会場には既に1,000人以上が集まり、広場や周りの道路上には、特産品販売の店が数多く出店しているなど、大変な賑わいを見せていました。

カバイヴァノフ市長の挨拶から式典が始まり、今年のバラの女王の紹介と、バラが縁で伊奈町と友好都市協定を締結したことを報告していただきました。

続いて、私が登壇し、ブルガリア語で「こんにちは」という意味の「ズドラヴェイテ」と大きな声で挨拶して、用意していた原稿を読み上げました。原稿の内容は、伊奈町の概要と、今日に至るまでの両市町との交流が中心で、マリア・ヨトヴァ教授が大きな声でブルガリア語に訳してくれました。

続いて、在ブルガリア日本大使である鷺見氏から、「両市町が友好都市協定を締結したことを嬉しく思うと同時に、今後も幅広く交流が続くことを期待したい」と力強いお言葉をいただきました。

この式典には、大臣、議員、大使、外交官、将軍、将校、歴代のバラの女王、姉妹都市からの賓客など、多くの来賓が参加していて、伊奈町の名前を大きく印象付けることができたと思います。

式典終了後には大勢の人に囲まれ、写真撮影に応じることとなりました。その中で、地元の高校生4人から「日本に行きたい、伊奈町に行きたい」という嬉しい声や、日本から来た家族連れから、「妹が伊奈町に住んでいます」と声をかけていただくなど、まさに「四海同胞、地球は一つ」を実感しました。カルロヴォ市を訪問して本当に良かったと実感した瞬間です。

今回のカルロヴォ市訪問では多くの成果がありましたが、何よりも式典の中で“日本の伊奈町”を広く周知できたこと、カバイヴァノフ市長の温かい人柄と懐の深さを感じたこと、鷺見大使に出会い、ブルガリアという国を理解できたこと、ブルガリアが親日的な国であることを肌で感じられたことが大きいです。

カルロヴォ市の人々の優しさや勤勉さ、何事にも挑戦しようとする姿勢は、日本人と通じるものがあると強く感じました。今後は、教育、文化、経済など幅広い分野で交流を深め、両市町のさらなる発展につながるよう努めてまいります。